

SNS で ユリと当別の 魅力を発信

いのひろあき
井野 浩明 さん

駐日オランダ大使からユリの魅力を発信するリリーアンバサダー（ユリ大使）に認定された、ユリ生産者井野浩明さんにお話を伺いました。



花き生産一筋でユリ

高校を卒業してすぐに実家で花き生産者としての仕事に就きました。当時、当別の花き生産者のほとんどがカスミソウを作っていたので、うちもカスミソウを中心とした生産をしていました。仕事を始めて5・6年経ったころから当別でユリの生産が始まり、今では当別花き生産組合の主力品目となっており、年間230万本を出荷しています。その中で一番生産量が多いのがオリエントハイブリッド（オリエントユリ）のシベリアという白い花の品種です。白いユリで有名なのは、大きな花で豪華に見えるカサブランカですが、当別では日持ちが長く白いユリの中でも1番需要が多いシベリアが出荷量の半数を占めています。うちで生産しているのもシベリアを中心とした作付けで、面積は196アール、30メートルから70メートルの

ハウスが33棟並んでいます。ユリの出荷は6月中旬から11月中旬くらいまで、7月の中旬ころから9月いっぱいのが最盛期ですね。その間は毎日朝から晩まで収穫作業に追われています。

当別のユリはオランダ産？

リリー プロモーション
プロジェクトで、昨年10月27日に駐日オランダ王国特命全権大使からリリーアンバサダーに認定されました。なぜオランダ大使から認定されるのかというと、ユリの球根はオランダ、ニュージーランド、フランス、チリで生産されていて、中でもオランダ産のものが多く、当別で生産されているユリもほとんどがオランダ産の球根が使われています。

アンバサダーとしての取り組み

アン バサダーは、日常的にユリを楽しむファ

ンを増やすため、ユリの魅力やユリに関するイベントなど各種事業をSNSなどを使って発信することが任務として求められています。この度の取り組みが初年度で、生産者、市場や仲卸、生花店、フラワーデザイナーなどさまざまな業種の45人が認定され、この1月から本格的に活動を始めています。私は、ほかの花とは違う高級感と見た目のインパクトがユリにはあると思っています。私は生産者として、作付けから出荷までの流れとともに、ユリの持つ魅力と当別町の事もPRしたいと考えていますし、3年計画のこのプロジェクトで、当別から多くの認定者が出ることを期待しています。

リリーアンバサダーに認定された井野さんにはシベリアの魅力とともに産地である当別町を多くの方にPRしてくれることを期待しています。（1月15日取材）